

OpenAI 次世代モデル「Astra」：研究成果と製品化への「空白」

研究段階のモデルが数学的難問を突破するも、製品としての仕様は一切不明。期待と慎重な導入判断が求められる。



2024年5月
(GPT-4o)



2026年7月
(GPT-5.6)



2026年8月
(Astra初公表)



将来
(一般提供・API未定)

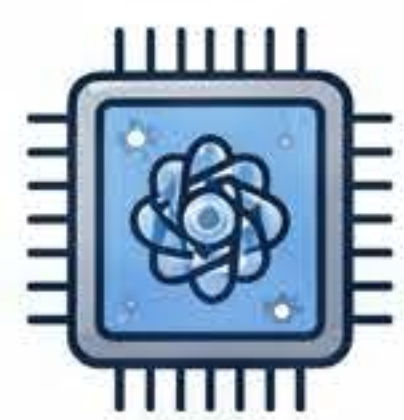


Astraの現在地：数学研究における「突破口」



未解決問題10件を解決・大幅に前進

$$\begin{aligned} \chi &= \mathbb{R}^2 & \sqrt{z} &= \frac{1}{2\pi} \\ -z &= \rho & ((\pi))^2 & \\ + & \downarrow & & \\ (\pi)^2 & \equiv \gamma & & \end{aligned}$$

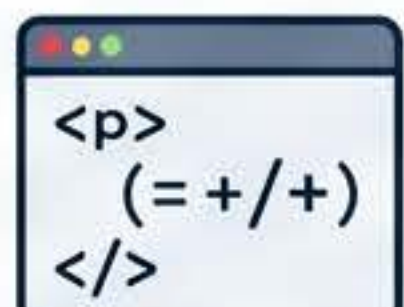


高次元球充填や量子計算など、研究フロンティアの難問で成果を報告。

「生成—形式化—機械検証」の推論プロセス



生成
(Generate)



形式化
(Formalize)



機械検証
(Verify)



AIが論証を生成し、Lean証明書で形式検証する高度な推論能力を実証。

推定研究コスト 1件あたり約2,000ドル



既存モデル(GPT-5.6 Sol)のAPI料金に
換算した推論コストの目安。

Astraと現行主要モデルの公開状況比較 (Astraの情報不足を可視化)

項目	OpenAI Astra	GPT-5.6 Sol	Claude Fable 5
利用形態	社内版のみ (不可) ✕	一般提供中 ✓	一般提供中 ✓
標準ベンチマーク	未公開 ?	公開済み (GPQA: 94.6%) ✓	公開済み (GPQA: 92.6%) ✓
価格 / 安全性情報	未公開 ?	公開済み ✓	公開済み ✓

*注：Googleの「Project Astra」とは異なります。



製品導入に向けた「欠落情報」と企業への提言



ほぼ全ての製品スペックが「未公開」



リリース日



API価格



レイテンシ



標準ベンチマーク



安全評価

リリース日、API価格、レイテンシ、標準ベンチマーク、安全性評価は一切不明。

汎用業務での優位性は「未検証」



文書書作成



コーディング



画像理解

VS



数学的問題を解決する

数学以外の文書作成やコーディング、画像理解で現行モデルを凌駕する証拠はない。

「Astra待ち」は厳禁：現行モデルの活用を



ベンダー依存のない
評価基盤の構築

GPT-5.6やClaude、Geminiを用いたベン
ダー依存のない評価基盤の構築を推奨。